

横浜市立万騎が原中学校 学校だより



桐の花

令和4年

4月22日

校長 中村 雅一

横浜市旭区万騎が原 31 TEL 045-391-5514 FAX 045-391-5537

URL <http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/jhs/makigahara/index.cfm>

「武器は絶望しかもたらさない」

校長 中村 雅一

テレビをつけると、毎日のようにウクライナの焼け焦げ崩壊した街の映像が目に飛び込んできます。日本から遠い国の戦争であっても、破壊された街並みとそこに住んでいた市民の嘆き、深い深い心の傷に目をそむけたくありません。

人類はテクノロジーを進歩させることはできましたが、いまだ確実に戦争を止める手立てを持っていないのだと、無力感に打ちのめされます。戦争が始まる時は、あっという間ですが、戦争を終わらせることほど難しいことはないのだと思い知らされます。西側諸国のロシアへの経済制裁も今のところ、停戦への目に見える効果が出ているとは言えないように感じます。そのためか、西側諸国は経済制裁をさらに強めていくようですが、それによってロシアの世界的孤立がますます進み、戦争の拡大や長期化につながっていかないか、心配です。

かつての日本が中国、満州での戦闘を拡大し（満州事変から日中戦争へ）、国際連盟から脱退、その後、アメリカからの石油資源の供給を断たれてアメリカとの戦争に突入していった（太平洋戦争）ことが重なります。もちろん、当時の日本と今のロシアのウクライナ侵攻の歴史的な背景等は、異なりますが、「戦争」はいつの時代も、時の権力者によって正義の名のもとに始まるのは同じです。

今から19年前の2003年、(中学生の君たちは、まだ生まれていませんが)、アメリカによってイラク戦争が始められました。対テロ戦争の延長でイラクが大量破壊兵器を持っていると主張するアメリカ・イギリスに、日本はいち早くアメリカのイラク攻撃を支持しました。アメリカのイラク攻撃は強行され、民間人も含めてイラクの多くの人の命が奪われていきました。その戦場の現場は想像を超える状況で、死傷者のかたわらで悲しみに耐えきれず声を上げて泣く家族、物資のない中で奮闘する医療従事者たち、爆弾で身体の一部を吹き飛ばされた人、劣化ウラン弾の使用（放射性物質の拡散）によってもたらされた環境汚染と深刻な先天性欠損症をもって生まれた新生児。しかし、大量破壊兵器は見つからず、アメリカもイギリスもイラクを攻撃する理由とした情報は間違っていたと、後に認めます。

私たちは過去の過ちにしっかり向き合い学んできたと言えるのでしょうか。どうしたら戦争を終わらせ、紛争を予防し、誰も傷つかない平和な世界を実現することができるのでしょうか。この問いへの答えは「過去の過ちから学ぶこと」、「戦争は戦争を知ることでは止められない、とりわけ、どのようにして戦争が始まるのかを知ること」は、最も大事なことなのだと思います。

そして、今、日本にいる私たちにできることは何でしょうか。日本という国に生まれた意味を考えたとき、日本のこれまで歩んできた歴史を考えたとき、紛争地で身動きの取れない人たちの代わりにできることはないのでしょうか。また、侵攻をやめないロシアに対しても隣国の日本はどのように接し、どう働きかけをしていけばよいのでしょうか。日本国憲法前文を「理想だから」で済ませて良いものなのかとも、思い悩みます。

確かに、日本はウクライナからの避難民をいち早く積極的に受け入れる姿勢を示し、支援に手を挙げる地方自治体も相次いでいます。これまで、難民認定者数が極めて少なく、「冷たい」と言われてきた日本ですが、困窮する外国人に制約や分け隔てなく、受け入れるようになったのでしょうか。

昨年2月1日に軍事クーデターが起きたミャンマーを例にとっても、自治体レベルでの支援の広がりや施策は講じられていません。同じく、中東のシリアやイエメンの内戦、北アフリカでの紛争、アフガニスタン紛争など、こうした地域で増え続けている難民の人びとの様子や、そこで起きていることは、今や報道すらほとんどされません。なぜなのでしょう。ウクライナで起きていることと変わらない、終わりの見えない戦争や紛争によって、最悪の人道危機が起きています。失われていく命は、数知れません。

アメリカの作家でジャーナリストのムスタファ・バユミ氏はイギリスの新聞「ガーディアン」のコラムで次のように述べています。

「もし私たちの他者への思いやりが、私たちと同じような容姿を持ち、同じように祈る人々を歓迎することだけに向けられるなら、戦争が促す狭量（相手を受け入れる心の狭さ）で無知なナショナリズムと同じものを再現する運命をたどることになります」

膚の色や文化的な距離が近いほど、感情的に共感したりショックを受けたりするのは、ある意味、もっともなことではあっても、そのことが実は差別につながったり、公平なものを見方を妨げ、戦争の火種になる、ということをお示ししているのだと思います。

おわりに、今も無数の人びとの命が奪われ、日々の日常が破壊されて生活基盤を失っているウクライナの街の惨状や人々の嘆き、悲しみ、そのすべては、お互いが軍事力で国や国民を守るという方法によってもたらされたものです。軍事力で国や国民を守るという戦争にどんな意味があるのか、と考えずにはられません。ならば、どうしたらいいのか。何をしなければならないのか。その答えをなかなか見出せない中、思い出されるのは、戦禍のアフガニスタンで多くの命を救った医師の中村哲氏の言葉であり、彼の生涯です。

「武器は絶望しかもたらさない」「武器ではなく命の水をおくりたい」といって、中村先生が掘った井戸の数は1600本にも上り、25キロに及ぶ用水路を拓きました。中村先生は、残念ながら2019年12月にアフガニスタン東部のジャラバードで何者かによって殺害されてしまいましたが、つないだ人の命は、実に65万人と言われます。人々に水や食糧を与えることで、平和をつくろうとした中村先生の志や生き方は、今もなお、私たちに多くのことを伝えてくれているように思います。

中村哲先生の言葉です。

「世界が経済的利権や利害をめぐって争い、不況が回復すれば幸せが訪れると信じるのは愚かである、人の幸せは別の次元にある」

「人間にとって本当に必要なものは、そう多くはない」

「何が真実で何が不要なのか、何が人として最低限共有できるものなのか、目を凝らして見つめ、健全な感性と自然との関係を回復すること」

「人も自然の一部である。・・・科学や経済、医学や農業、あらゆる人の営みが、自然と人、人と人の和解を探る以外、我々が生き延びる道はないであろう」

『信頼』は、一朝にして築かれるものではない。利害を超え、忍耐を重ね、裏切られても裏切り返さない誠実さこそが、人々の心に触れる。それは、武力以上に強固な安全を提供してくれ、人々を動かすことができる。私たちにとって、平和とは理念ではなく、現実の力なのだ」

「天、共に在り アフガニスタン三十年の闘い」中村哲 著 NHK 出版より

(令和4年 4月16日)



各学年の校外学習

入学・進級してまだ日も浅いですが、来月に迫った今年度の校外学習を紹介します。校外学習は、生徒が楽しみにしている行事であり、教育的意義も大きなものがあるので、感染の状況を注視しつつ、感染対策を施しながら実施可能な方法を考え、実施に向けて取り組んでいきたいと思ひます。

1年生 自然体験学習

- ◆行先 千葉県 マザー牧場、金田海岸
- ◆活動 潮干狩り・牧場での体験学習
- ◆日程 5月20日（金）
- ◆移動手段 貸し切り観光バス

◆ねらい

☆新しい集団の中での人間関係を築く。

☆豊かな自然の中で、自然の素晴らしさを知り、自然に感動し、自然を大切にする心を育てる。

☆班行動では、自ら計画を立て、活動に参加していく中で、自主・自立の精神を養う。

2年生 東京校外学習「一心同体～学びながら仲を深めよう～」

- ◆行先 東京都 浅草演芸ホール 上野周辺
- ◆活動 落語鑑賞 班活動
- ◆日程 5月19日（木）
- ◆移動手段 貸し切り観光バス
- ◆【探求課題】 ☆伝承されている伝統文化の特色やその継承に力を注ぐ人々について知る。
- ◆【学習事項】 ☆日本の伝統文化の尊重と郷土愛の涵養、他国文化を尊重する心を養う。
☆伝統文化に触れ、奈良・京都への学習へとつなげる。
☆東京の文化に触れることで、地域の特性や文化について学ぶ。
☆日本や世界の歴史と日本の果たすべき役割について考える。
☆班活動を行い、修学旅行での京都班別自主行動につなげる。

3年生 修学旅行「Happy end!!最後の思い出作り」

- ◆行先 奈良県・京都府
- ◆活動 歴史散策 班活動
- ◆日程 5月22日（日）～24日（火）
- ◆移動手段 新幹線

◆ねらい

☆総合的な学習の一環として、自ら課題を設定し、意欲をもって学習・実践していく姿勢と、仲間と相互に理解・協力しながら問題解決をする能力を育てる。

☆歴史的な建造物や文化活動に触れ、地域の特性や文化・伝統について体験的に理解する場とする。

☆校外学習の集大成として、日常の生活では味わえない体験を通して、自らの力で思い出を作り、生徒同士や教師と生徒の信頼関係を一層深める機会とする。

新入生保護者の皆さまへ「さくらプログラム活用におけるお詫び」

新1年生がスムーズに学校生活をスタートさせるために、「さくらプログラム・中学校給食」を活用し、スタートいたしました。このプログラムでは、1年生のみ、クラスの運搬係と配膳係を決めて教室まで運び、教室前の廊下にテーブルを配置して、配膳するやり方となっています。このやり方につきましては、昨年度の新入生保護者説明会において、健康教育課の職員が行いました。しかし、その説明において、「運搬は業者が行う」と受け取れる説明だった等のご指摘が先日の保護者会でありました。学校としましては、新入生の保護者の皆さまへの十分な説明が不足していたことを認識し、お詫び申し上げます。

さて、「さくらプログラム」の一週間の実施で、容器をクラスでまとめて返却するため、昼休みの時間が短縮されてしまう等の課題が出ています。保護者からご指摘いただいた通りです。エレベーターやスロープのない本校において、業者が運べない以上は、生徒が1階まで受け取りに来て、返す方式を取らざるを得ないのが現状です。

そこで、来週より、1年生においても2、3年生と同様に「各自の受け取り・返却方式」とさせていただきます。何とぞご理解をいただき、学校より市教委への配膳員さんの増員や、エレベーターの設置等の要求を状況に応じて行ってまいりたいと思っておりますが、その折には何とぞご協力、ご支援のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

5月の予定をお知らせします

※予定ですので、感染の状況等により大幅に変更になる場合もあります。

日	曜	学校行事など	昼食	日	曜	学校行事など	昼食
1	日			17	火		○
2	月		○	18	水	尿検査【1次】(全学年)	○
3	火	憲法記念日		19	木	2学年校外学習	○
4	水	みどりの日		20	金	1学年自然体験学習	○
5	木	こどもの日		21	土		
6	金	眼科検診(全校) / 修学旅行保護者説明会	○	22	日	3学年修学旅行	
7	土			23	月	3学年修学旅行	○
8	日			24	火	3学年修学旅行	○
9	月		○	25	水	3年代休	○
10	火	副教材費集金(8:00~8:30)	○	26	木	歯科検査(1・3) / PTA総会	○
11	水		×	27	金	体育祭予行練習	○
12	木	歯科検査(2学年+個別支援級)	○	28	土		
13	金	内科検診(3学年)	○	29	日		
14	土			30	月	衣替え	○
15	日			31	火	体育祭準備	○
16	月		○				

○○●○○○●○○○●○○○○●○○○○●○○○○●○○○○●○○○

5月の学校カウンセラー(小川みなみ)による相談

5月11日(水)・18日(水)・25日(水)です。

相談予約等は、本校職員または相談室直通電話(391-5891)まで。

○○○●○○○●○○○○●○○○○●○○○○●○○○○●○○○○●○○○

6月の主な予定

1日(水) 体育祭

2日(木) 開港記念日(休日)

6日(月)・7日(火) 水着販売

9日(木)・10日(金) 定期テスト

新学期を迎えて不安を抱えているお子様も多いかと思っております。4月21日~27日の期間、担任による生徒の教育相談を行っております。些細なことでもかまいませんのでお話しください。保護者の方におかれましても心配なことや知っておいてほしいことがありましたら、学校(045-391-5514)にご連絡ください。